

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 16 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.8 m ³ /h	29.5 °C	107.3 kPa abs	A系： 0.48	vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			B系： 0.48	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	41.3 °C	4.72 kPa g	A系： 0.08	vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.07	vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 0.0 m ³ /h	41.8 °C	0.22 kPa g	A系： 0.20	vol%
		給水系：約 6.8 m ³ /h			B系： 0.18	vol%

絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

1～3号機の原子炉注水に使用している常用高台炉注水ポンプについては、11/27～28の電源工事に伴い停止する予定であり、その間は、タービン建屋内炉注水ポンプに切り替え、注水を行う予定。現状、タービン建屋内炉注水ポンプから炉心スプレイ系側への注水配管が設置されていないことから、注水配管の設置作業を実施することとしている。

【3号機】・11/16 10:29 同配管の接続作業に伴い、常用高台炉注水ポンプからの原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 6.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.4 m³/h から 0 m³/h に変更。

・11/16 11:21 同作業が終了したため、原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約 6.5 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を 0 m³/h から約 4.5 m³/h に変更。なお、配管設置作業に伴い、一時的に原子炉への全注水が給水系からとなったものの、原子炉への注水量は総量(約 6.5 m³/h)を維持して継続。

【1号機】・11/16 11:36 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.8 m³/h から約 3.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。

【2号機】・11/16 11:36 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.7 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。炉心スプレイ系からの注水量は約 4.5 m³/h で継続。

<2. 使用済燃料プールの状況> (11/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	16.5 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	16.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	27 °C

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/11 10:05 ~ 11/16 9:43 移送実施
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	11/15 10:18 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/16 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。

以 上